

エゾシカ保護管理計画検討事業 H17 年度調査結果概要

3ヵ年計画予定分

1. シカ季節移動調査(継続)

無雪期捕獲の全て(29頭)、積雪期捕獲個体のほとんどが今冬も同じ越冬地で確認された(中央冬捕獲10頭中9頭、基部冬28頭中11頭)。前回報告の通り、短期的(数年スケール)にみる限り越冬地に忠実性が高いといえる。越冬群は無雪期にも残るグループ(定着型)と他の地域へ移動するグループ(移動型)の2種類からなる。移動型は、4-5月に越冬地を離れ、12-1月に越冬地に入る(図1)。中央部、基部とも同様の傾向があり、定着型のみが確認されている知床岬地区越冬群*にも移動型が含まれる可能性大。移動型の最大移動距離は基部捕獲群の数個体で約20km、半島を横断して(脊梁山脈を越えて)標津町で夏を越したもの。縦断方向の移動はやはり基部群の1個体のみで、夏期に幌別台地周辺で確認された。

*なお知床岬地区のエゾシカ22頭への電波発信器装着は、朝日新聞社と知床財団の共同調査事業「厳冬期知床野生動物調査(2005)」の一環で実施されたもの。

2. シカ個体群モニタリング

航空機による越冬数カウント調査(岬地区、ルシャ地区)はH18年2月実施の予定。▲

3. 花粉分析

標本地として、越冬地周辺(岬、ルシャ)、低標高の非越冬地(糠真布、羅臼市街付近)、高標高(羅臼湖周辺)、その他低標高(真鯉、ポンホロ沼、ウトロ周辺)の8ヶ所より土壌標本を採取した。残念ながら岬とポンホロ沼の標本は土壌中の花粉量が極端に少なく(現在湿地だが過去に乾燥した時期が長かった、土砂の短期的流入があった、などの理由)分析に適さないと判断され、残り6ヶ所分を分析中。1月中に下処理を、2月中に花粉同定と定量を終える予定。年代推定は発注済で2月中に結果が出る。ニレ属の花粉量に関し、ルシャのデータと昨年予備調査の五湖周辺沼地でのデータを比較すると多少の共通点が見られた(図2)。五湖周辺調査地では約2000年前(現在から。西暦ではAD100頃)と約1000年前(AD1000頃)、そして現在の3回に大きなギャップが見られる。ルシャでは、年代推定結果はまだ出ていないが、深度100cm、50cm、20cmの3ヶ所にギャップが見られ、前者2ヶ所のギャップ(100cm、50cm)は表層から等間隔にあり、五湖周辺データとほぼ合致する。うがった見方をすれば、1000年に1度の頻度でニレ属の花粉量が目立った減少を見せていることになるが、最終的な考察は結果が揃った後となる。

3ヵ年計画予定外分

4. ニレ属・イチイ年輪調査

岬でニレ 15・イチイ 5、幌別・岩尾別地区でニレ 20・イチイ 10 を採取し、昨年度分を合わせニレ 40・イチイ 20 の 60 本分を分析中。イチイは心材腐朽のため試料に適さないものが多かったが最大 304 年生のものが、ニレでは最大 369 年生のもの（北海道最年長記録？）が見つかった。19 世紀前半（1800-1850）、1910-30 年代に樹皮食いが集中していたが、いずれも該当個体の枯死に至らない程度に留まり、今回（1990 年代末）よりも採食圧は低かったと考えられる。

5. 希少植物種調査

知床国立公園の海岸線、斜里町幌別川から羅臼町相泊までを対象に、シカの採食圧を免れた在来植物種の群落を調査し、構成種を記録した。74 ヶ所の群落に 121 種（科・属まで同定されたものを含む）が確認され、うち 20 ヶ所に RDB 種（環境省・北海道）7 種いずれかが存在した（図 3）。全体を通して見ると、岩峰上に孤立しても存在可能なガンコウラン群落のような風衝群落のレフュージアは多少見られるものの、セリ科草本・イブキトラノオ・ナガバキタアザミの確認個体数が少ないことから、土壌の発達が必要と思われるこれら高茎草本群落はレフュージアがあってもかなり小規模と思われる。

6. 高山帯・広域採食圧調査

エゾシカの高山帯への進出状況については、ウイーヌプリ、知床沼、知床連山、遠音別岳等で踏査を実施した（図 4）。無雪期（夏期）のエゾシカの痕跡はあるものの、現時点では高山植生への深刻な影響は確認されなかった。

また、広域的なシカ採食圧の状況把握のため、2×30mのベルトコドラートによる簡易的な樹皮食い調査を計 7 地域で実施した（図 4、表 1）。2003 年 3 月の越冬群分布調査で、「非越冬地」と分類した場所でも、選好樹種を中心にシカの樹皮食いは発生していた。ただし低標高にも関わらず樹皮食いを受けずに残っている選好樹種の小径木（DBH20cm以下）が存在した。一方、同調査で「越冬地」とした場所では、標高 200m 台以下の選好樹種についてはほぼ壊滅的な影響を受けていたが、より高標高側では、樹皮食いを受けずに残存している個体があることが確認された。

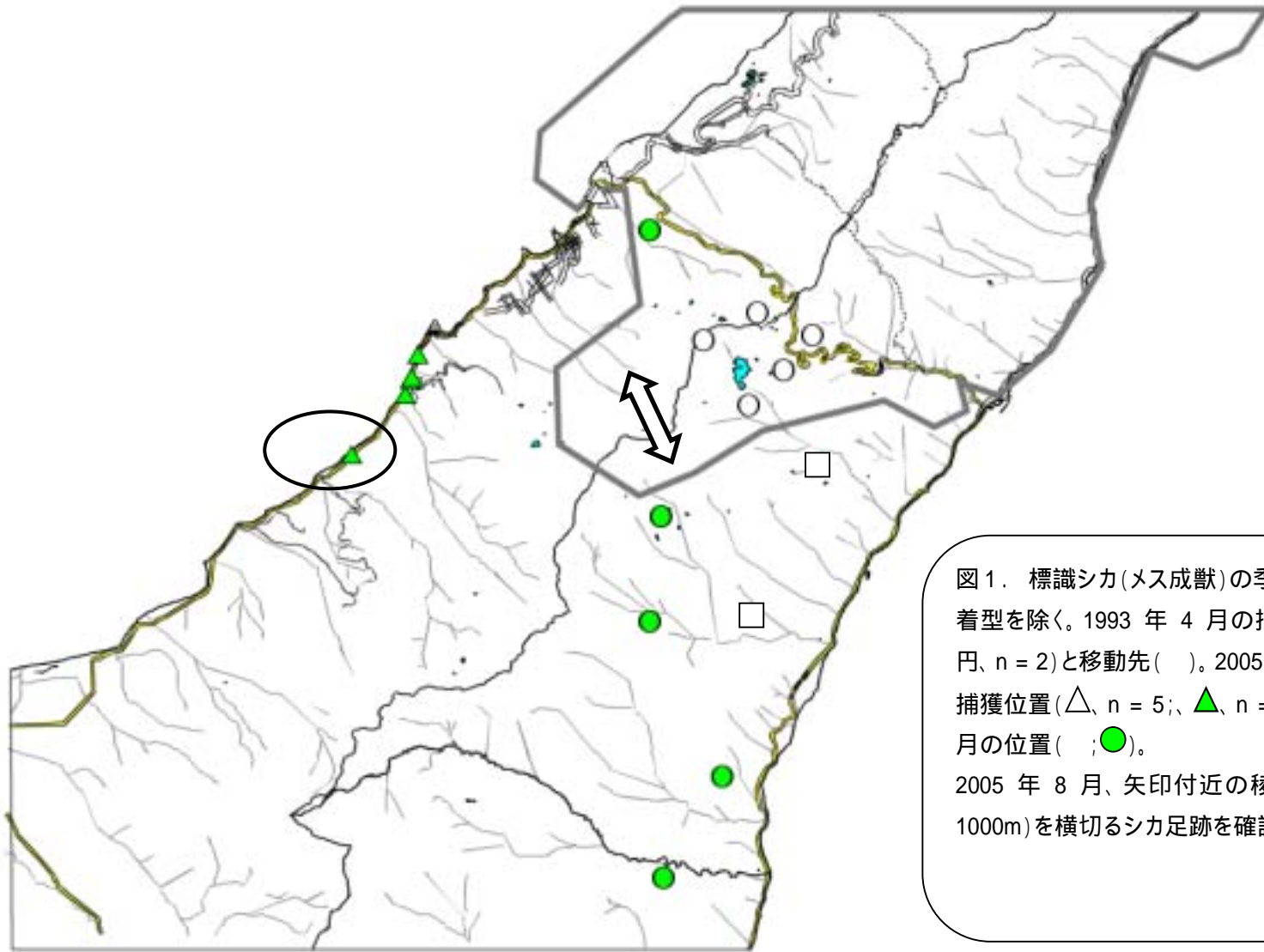


図1. 標識シカ(メス成獣)の季節移動。定着型を除く。1993年4月の捕獲位置(だ円、n = 2)と移動先(□)。2005年1-3月の捕獲位置(△、n = 5; ▲、n = 5)と同年8月の位置(●)。2005年8月、矢印付近の稜線(標高約1000m)を横切るシカ足跡を確認。

層別
相対花粉量

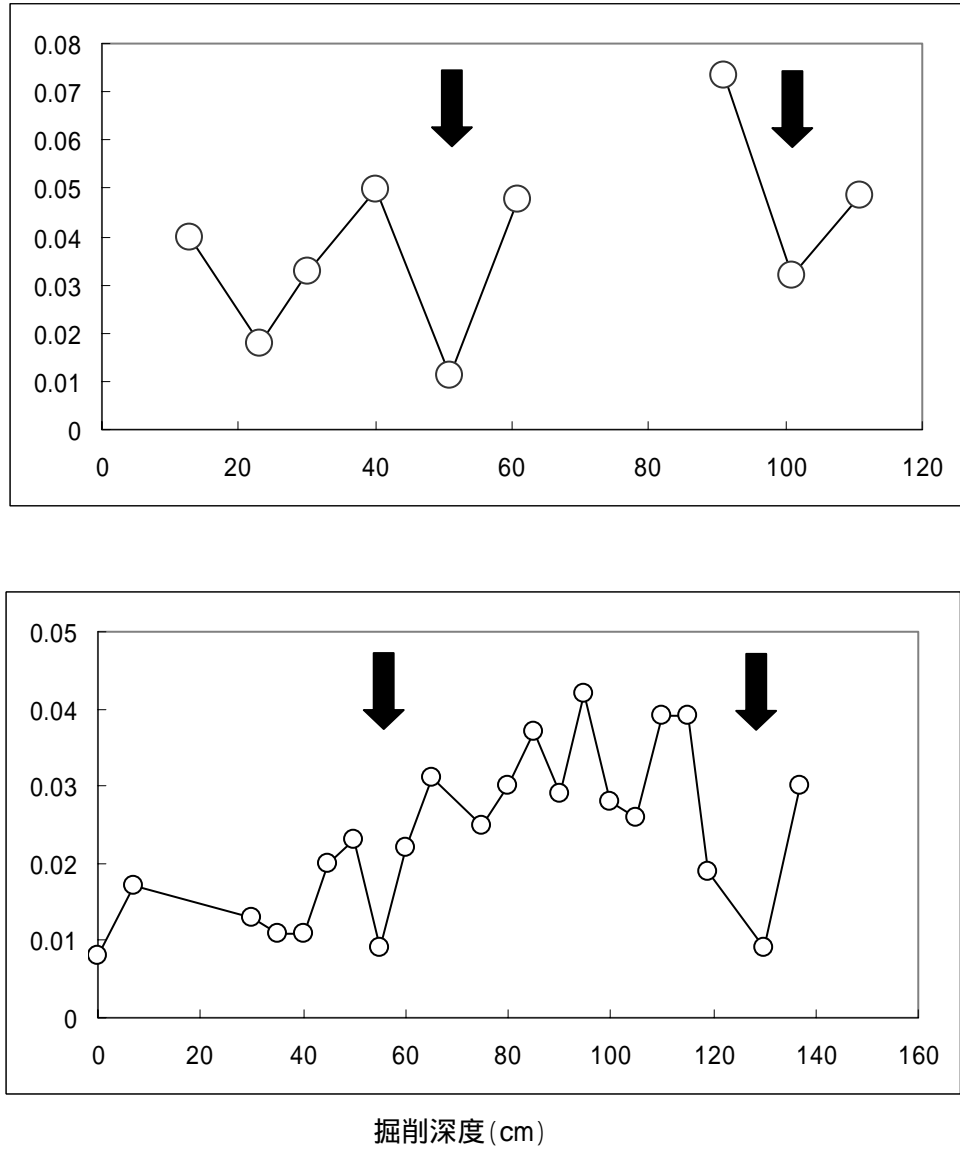


図 2. ニレ属花粉量の消長。上はルシャ地区、下は 2004 年度予備調査の五湖周辺沼地のデータ。矢印部分に似た減少傾向が見られる。

図4. シカの越冬地分布とH17年シカ採食圧・高山進出状況調査地点

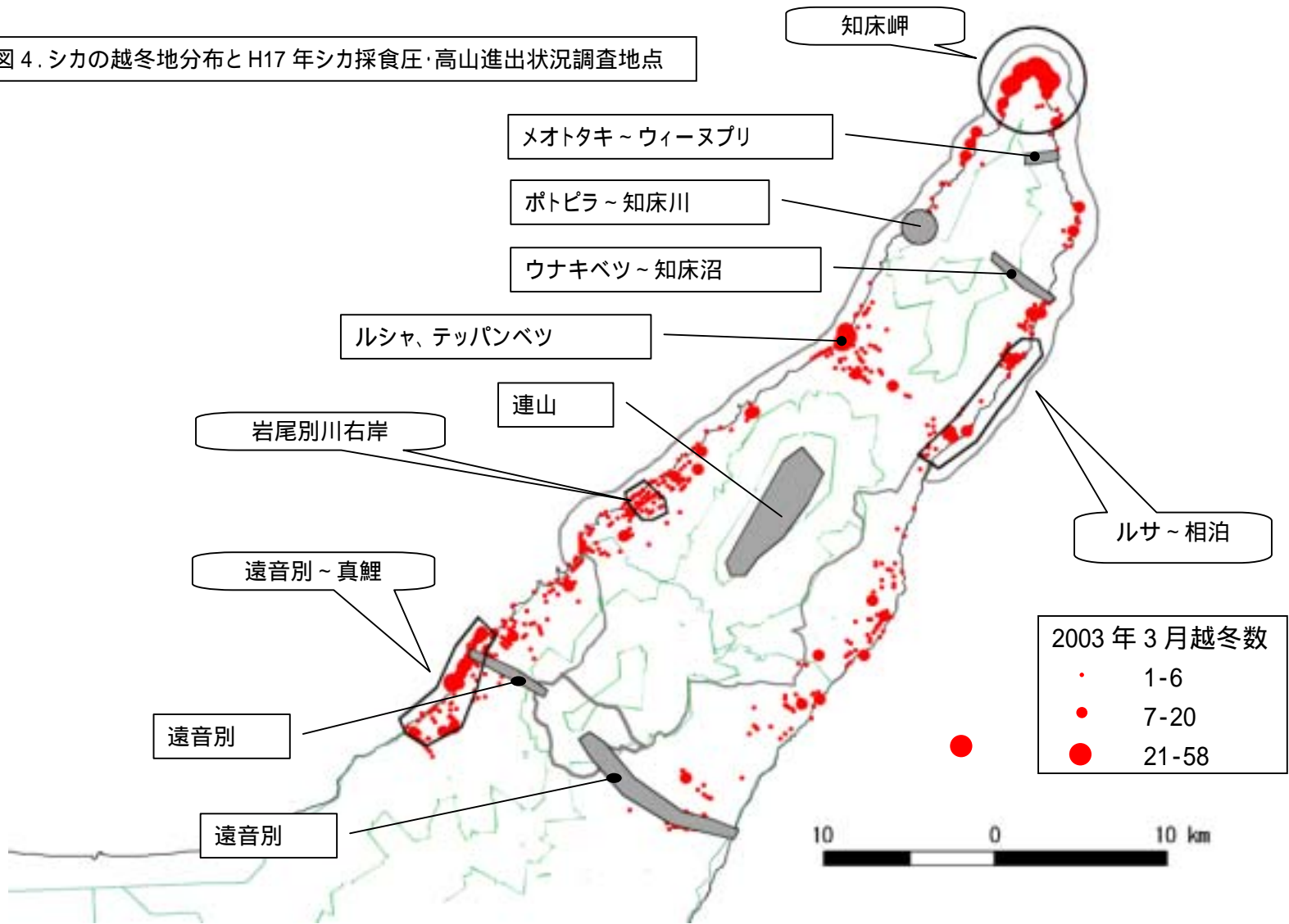


表1. 各標高帯別のベルトコドラート(2m×30m)におけるエゾシカ樹皮食い木の本数。ニレ属(ホヨウ、ハルニレ)、キハダ、シナノキ属(シナノキ、オオハハダイシ)については、コドラート内の総個体数(分母)に占める樹皮食い本数(分子)。なお今回の調査でノリウツギは1本も確認できなかった。

03年調査区分	非越冬地						越冬地																	
	ホトバラベツ~知床川		メオトキ~ウイヌプリ		ウナキベツ~知床沼		ルシャ川		テッパンベツ川		遠音別岳(斜里側)		遠音別岳(羅臼側)											
調査地域																								
樹種	ニ	シ	他	ニ	シ	他	ニ	シ	他	ニ	シ	他	ニ	シ	他									
0	5/5	-	-	-	2/3	-	-	-	5/5	-	-	1	1/1	-	5/5	4	-	-	-	2				
100	1/1	-	-	-	-	2/3	-	-	-	1/1	-	-	5	2/2	-	-	7	0/1	-	-	2			
200	7/8	-	-	-	2/2	-	-	-	2/2	0/1	-	8	-	-	1/1	3	4/4	-	-	3	0/1	-	-	-
300	4/7	-	-	-	2/2	-	-	2	-	-	-	1	2/2	0/7	-	-	-	0/1	-	1	1/2	-	-	-
400	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3/4	-	-	5	-	-	-	1
500					ダケカンバ・ハイマツ群落		-	-	-	-	-	1	1/1	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-
600					ダケカンバ・ハイマツ群落		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
700							-	-	-	-	-	-					ダケカンバ・ハイマツ群落		-	-	-	-	-	